

2018年度公益財団法人新潟市海洋河川文化財団 事業報告

事業概要

【期 間】

2018年4月1日から2019年3月31日まで

【概 要】

当財団は、公益財団法人新潟市開発公社と共同事業体を組み2年目（最終年）の管理運営を行った。

公益目的事業として掲げている、「海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業」、「海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示、飼育事業」を行うとともに、2019年度から5年間における、単独での新潟市水族館の指定管理の指定を受けた。

また、2019年度からの単独管理に向けて、普及事業に特化した「学びのデザイン室」など新たな組織編成の準備を進めた。

なお、事業報告の詳細については、次のとおりである。

【事業名】

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わり大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。

【主な事業内容】

- (1) 海洋・河川文化の普及啓発

☑…新規事業

区 分	名 称	プログラム等	実施日	参加人数
体験学習	田んぼ体験	田植え	6月3日	25人
		稲刈り	9月30日	23人
		脱穀	10月14日	20人
		わら細工	11月4日	17人
	野外体験教室☑	海辺のいきもの観察会	6月9日	12人

講演会	参入する外来生物～変貌する水中世界～ <u>画</u>	講師：井上信夫	8月18日	47人
	日本海北部における海洋環境と生物資源調査 <u>画</u>	講師：八木佑太、新田誠	12月8日	41人
	研究者が語るイルカの話 <u>画</u>	講師：伊藤春香、植田啓一	3月9日	46人
	さかなの家系図から探る日本海の歴史 <u>画</u>	講師：佐久間啓、新田誠	3月24日	24人

区分	名称	内容	実績
各種施設との連携	出展展示(海フェスタ)	パネル展示 <u>画</u>	7/14～7/29
		ワークショップ「ラッコの話～一番小さな海のほ乳類～」 <u>画</u>	7月15日 23人
		ワークショップ「水のいきものクイズ」 <u>画</u>	7月21日 35人
		ワークショップ「ミズクラゲを知ろう」 <u>画</u>	7月22日 22人
		ワークショップ「海の豊かさを守ろう」 <u>画</u>	7月26日 13人
		帆船「みらいへ」参加者へのイベント <u>画</u>	7月26日 40人
	出展展示(各種)	新潟市フェア <u>画</u>	7月1日 約80人
		第四アカデミー <u>画</u>	8月23日 52人
		バスまつり <u>画</u>	9月23日 約300人
		市場まつり	10月14日 約300人
		青空祭(青陵大学学園祭)	10/27・28 約100人
	社会教育施設連携	科学教室 <u>画</u>	11月3日 約300人
		水族館で潟普請(みなとびあと連携事業) <u>画</u>	6人+ボランティア7人
	学校教育連携	総合学習の受け入れ	小学校7校、中学校11校、中等教育学校1校、専門学校1校、大学1校 計22校328人
		実習生の受け入れ	飼育実習:専門学校3校11人、インターンシップ:大学4校5人、獣医実習:大学3校3人、博物館実習:大学2校3人 計12校22人
		教育現場への講師派遣	小学校4校、中学校3校 計7校、派遣職員4人
		新潟大学公開講座(佐渡臨海実習)への講師派遣	派遣職員 3人

(2) 海洋・河川文化の調査研究

区分	名称	内容
研究発表	JAZA(日本動物園水族館協会)関連	水族館技術者研究会、海獣技術者研究会など
	その他研究会・学会等	日本動物園水族館教育研究会など
各種会議	JAZA関連	園館長会議、設備会議、事務主任者会議、魚類作業部会など

	その他会議	JACRE（日本鯨類研究協議会）会議、JACREトレーニングセミナーなど
共同研究	水産庁委託事業	アカムツの種苗生産技術の開発研究及び親魚養成技術の開発

(3) 海洋・河川文化の保護保全（生物種の保全を含む）

区分	名称	内容	回数
生息域内 保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	3回/年
	ハクバサンショウウオ調査	糸魚川市の両生類の生息調査	1回/年
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	1回/年
	ROV（水中探査機）	間瀬沖で深海生物の調査	1回/年
連携調査	夏休み親子魚探検隊（新発田市）	生物多様性保全ネットワーク新潟の自然観察会への講師派遣	1回/年
	夏休み親子魚探検隊（五泉市）	生物多様性保全ネットワーク新潟の自然観察会への講師派遣	1回/年
	夏の陣「親子で川遊び」（関川村）	タランベクラブの自然観察会への講師派遣	1回/年
	新発田城お堀干し上げ（新発田市）	新発田青年会議所の外来魚駆除への協力	1回/年
生物調査	漂着生物調査	県内の海岸に漂着した生物調査	16回/年

2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

【事業目的】

新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

【主な事業内容】

(1) 水生生物に関する知識の普及振興

図・・・新規事業

名称	プログラム	内容	実施日	参加人数
いきもの 教室	プランクトンの観察図	植物・動物プランクトンを紹介し、食物連鎖の仕組みや環境問題などを解説した。	4月15日	17人
	ペンギンについてもっと知ろう図	ペンギンの分類、生息地、形態、生態の紹介や健康管理・繁殖への取り組みなどについて解説した。	7月8日	26人
	貝の標本作り	海岸にて実際に貝の採集を行い、採集した貝を用いて、標本を作成した。	7月25日	24人
	ウミホタルの観察	ウミホタルの生態や体の仕組みを解説し、餌を与えて摂餌の様子を観察した。	8月22日	22人
	ビーバーに注目	ビーバーの絵を描く、観察を通して理解を深め、にいがたフィールドでヤナギを採集し給餌観察する体験を通して、食べているものや歯の構造を理解してもらった。	9月9日	18人
	スルメイカを調べよう	スルメイカの体の形を見てもらい、形態的特徴を解説する。解剖して内臓などを観察した。	10月14日	16人

	みてみてクラゲ	ミズクラゲをすくい手元の小容器に移し、間近で体の構造を観察。ポリプやエフィラ、ミズクラゲの一生を紹介。エサを与え、とらえ方、体に取り込む様子を観察した。	11月11日	26人
	いきものの歯を見よう	様々な動物の歯を観察し、特徴や食性について解説した。	12月16日	23人
	アシカとアザラシの観察 <small>画</small>	アシカとアザラシの違いについてクイズや絵を描く・実物を観察する体験を通して理解してもらった。	1月20日	15人
	かたちのふしぎ	動画や写真を見ながら、シルエットクイズや会話による掛け合いを行い、魚類の様々な形に注目し、そこから読み取ることのできる事柄を紹介した。	2月17日	18人
	サメの解剖	サメの外部と、解剖して内部の体のつくりを観察することにより、サメの生態への理解を深めてもらった。	3月17日	26人
企画展示	深海には何がある？水中探査機で見た日本海	遠隔操作型水中探査機を用い、普段見ることのできない水深200mの世界の海底環境と生物を紹介した。	4/1～4/8	8,028人
	育てる～マリニピア日本海の繁殖・育成 <small>画</small>	水族館の日常的な取り組みのひとつである、「育てる」ための工夫や役割などを、生き物の展示や解説パネルで解説した。	4/27～6/17	52,550人
	新潟の外来魚～失われゆく多様性 <small>画</small>	新潟県内の外来魚を題材に取り上げ、固有の自然におよぼす悪影響について紹介した。	7/13～9/24	123,776人
	第5回フォトコンテスト受賞作品展	館内で撮影した写真を募集しコンテストを行い、上位受賞作品の展示会を開催した。 応募点数：341点 展示点数：144点	11/22～1/14	24,355人
	海の生きものを集める～水族館の収集活動 <small>画</small>	水族館が行なっている展示生物の集め方や、採集に欠かせない網などの道具、輸送方法などを紹介。また活魚輸送車の仕組みに関して模型を使用して紹介した。	3/15～3/31	15,574人
参加型イベント	親子いきもの体験 <small>画</small>	生物の観察と触れる体験、図画や工作などを行い、親子の触れ合いとスタッフとのコミュニケーションを通し、感覚教育の体験をもとに知識をつくり、学びの定着を図った。	5月20日	26人
	おやこですいぞくかん <small>画</small>	家庭ではできない大掛かりな工作などを取り入れ、水生生物や海について、理解や知識の普及を行った。	6月23日	30人
	にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドで自然環境と希少生物の域外保全を紹介した。	各月第3土曜日（12～2月を除く）9回	78人
	イルカバックヤードミニガイド	普段入れないイルカのバックヤードの見学を通して、エサやイルカの生態について学んでもらった。	7～11月の第2・4日曜日 10回	121人
	育成室開放	育成室を開放し、育成の情報、生物の成長を会話形式で解説を行った。	12/19、1/19、2/19	118人
記念日イベント	世界カワウソの日	世界カワウソの日になみ、水槽でのカワウソ給餌解説とアクアラボでの体験イベントを通して、カワウソの生態や特徴、生息環境などを紹介した。	5月27日	入館者全員対象

特別ガイドツアー	ナイトツアー	通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等を解説した。	8/24・25・31、9/1	88人
大人向け教室	写真教室	水槽撮影時に役立つ技術をレクチャーし、実際に館内で撮影を行った。	9月30日	22人

(2) 水生生物の収集、飼育、展示

区分	名称	内容	回数
飼育展示	館内飼育展示	600種 30,000点の魚類、海獣その他水生生物の飼育展示規模を維持、拡大	常設
	イルカショー	イルカの認知、行動能力などを解説し、楽しく学べるイルカショーを実施した。(約20分)	4~5回/日
	マリンサファリ給餌解説	トドに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行った。(約10分)	2回/日
	ひれあし類解説	アザラシ科とアシカ科の違いなど、ひれあし類全般についての解説を行った。(約10分)	2回/日 ※夏季は除く
	ラッコの給餌タイム	ラッコが餌を食べる様子を観察することができる。また、ラッコの生態、動作について給餌しながら分かりやすく解説を行った。(解説:約10分、4回目のみ)	4回/日 ※給餌
	ペンギン解説	ペンギン散歩道(夏季はペンギン海岸)でペンギンの歩く様子等を見ながら、分類や生態、生息地の環境について解説を行った。(約15分)	2回/日
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物の紹介や海洋環境に関する知識の普及、水族館のしくみまで多角的な情報を伝えた。(約10分)	1~2回/日
	磯のいきもの解説	磯の体験水槽で、生物の扱い方や、生息環境について、解説を交えながら近くで観察してもらった。(約10分)	1回/日
	アクアラボ体験	通常展示では伝えられない、さまざまな生き物に関するプログラムを開催し、来館者へ発信した。	通年(繁忙期以外)
生物収集	巻漁港	クラゲ採集	15回/年
	佐渡乗船	エビカゴ漁乗船採集(深海生物)、定置網乗船採集(シイラなど)	7回/年
	新川	フクロアミ採集	10回/年
	寺泊乗船	アカムツ漁乗船採集など	4回/年
	間瀬乗船	ハツメ乗船釣り採集	2回/年
	出雲崎	アマモ場生物採集	8回/年
	能生乗船	ベニズワイ漁乗船採集(深海生物)	1回/年
	水族館地先	潜水等による採集(海藻、ナマコ、ヒトデなど)	1回/年
	加茂	底引き網漁乗船採集	1回/年
	隠岐	ハガツオ輸送	1回/年
	弥彦	アブラハヤ採集	1回/年
	大通川	ブルーギル採集	1回/年
	寺泊	ヤリタナゴ、フクロアミ採集	2回/年
	新発田	モツゴ採集	1回/年

	田上	オイカワ採集	1回/年
	福島潟	オイカワ採集	1回/年
	新潟県水産振興協会	アユ輸送	1回/年
	寺泊	深海生物収集（トクビレなど）	27回/年
	間瀬	深海生物収集（ナガツカなど）	8回/年
	新潟	深海生物収集（アバチャンなど）	14回/年
	佐渡	深海生物収集（オキノテツルモヅルなど）	2回/年
	海洋生物研究所	プテラポゴン・カウデルニィ輸送	1回/年
	新潟県水産海洋研究所	クロウミウマ輸送	1回/年
生物交換	ふくしま海洋科学館	マイワシなど搬入	6回/年
	東海大学海洋科学博物館	キンメダイなど搬入	1回/年
	のとじま臨海公園水族館	スズメダイなど搬入	1回/年
	揚島水族館	イトマキヒトデなど搬入	2回/年
	室蘭水族館	スケトウダラなど搬入	1回/年
	サンシャイン水族館	ザラビクニン搬出	1回/年
	魚津水族館	シロウ搬出	1回/年

収益事業

1 施設管理に付帯する事業

【事業目的】

施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置。

【主な事業内容】

区分	場所	設置数
レストラン	本館2階	1ヶ所
軽食	屋外、屋上 ※季節営業	2ヶ所
移動販売車	アプローチ棟手前 ※季節営業	2ヶ所
売店	アプローチ棟	1ヶ所
自動販売機	館内各所	17ヶ所
ロッカー	本館1階	1ヶ所
記念メダル	本館1階	2ヶ所
プリクラ	水辺の小動物ゾーン	1ヶ所